

2015 年度 第 1 回 鋼構造運営委員会 議事録

1. 日時 平成 27 年 5 月 25 日(水) 13 時 00 分～17 時 00 分
2. 場所 建築会館
3. 出席者 多田元英, 一戸康生, 井戸田秀樹, 稲岡真也, 岡本哲美, 河野昭彦,
(敬称略) 向野聡彦, 聲高裕治(五十嵐委員代理), 澤本佳和, 吹田啓一郎, 竹内 徹,
田中 剛, 兼光知己, 増田浩志, 松本由香(岡崎委員代理), 見波 進,
平島岳夫, 宇佐美徹(記録)
欠席:五十嵐規矩夫, 岡崎太一郎, 越智健之, 笠井和彦, 木村祥裕,
田川泰久, 寺田岳彦, 中込忠男, 成原弘之, 西山 功, 原田幸博,
緑川光正
4. 配付資料
 - 01-00 鋼構造運営委員会委員名簿(2015.04)(多田主査)
 - 01-01 2015 年度第 1 回鋼構造運営委員会議事予定(多田主査)
 - 01-02 2014 年度第 5 回鋼構造運営委員会議事録(案)(宇佐美)
 - 01-03 ~~構造本委員会議案~~(前回委員会から未開催のため)
 - 01-04 鋼構造座屈小委員会(井戸田委員)
 - 01-05 鋼構造接合小委員会(増田委員)
 - 01-06 鋼構造制振小委員会(緑川委員)
 - 01-07 鋼構造耐火設計小委員会(平島委員)
 - 01-08 鋼構造環境小委員会(兼光委員)
 - 01-09 鋼構造素材小委員会(見波委員)
 - 01-10 鋼構造塑性設計小委員会(五十嵐委員)
 - 01-11-01 鋼構造関連規準・指針の英文化小委員会(岡崎委員)
 - 01-11-02 「鋼構造設計規準」更新の提案
 - 01-12 本年度(2015 年度)大会 PD の準備状況について(吹田委員)
 - 01-13-01 柱脚設計施工ガイドブック(増田委員)
 - 01-13-02 接合小委員会梁端混用接合 WG 今後の活動計画(松本委員)
 - 01-13-03 従来型接合部資料(松本委員)
 - 01-13-04 改良型接合部資料(松本委員)
 - 01-14 質疑回答の一覧(井戸田委員)
 - 01-15 AIJ 鋼構造 PD 主題一覧(多田主査)
 - 01-16 JASS6・技術指針改定に伴う審議の依頼(田中委員)
5. 議事内容
 - (1) 資料 01-00 に基づき本年度委員(委嘱:五十嵐委員, 兼光委員)の確認がなされた。
 - (2) 資料 01-02 に基づき前回議事録の確認がなされた。
 - (3) 資料 01-04~01-11 に基づき各担当委員より小委員会の報告がなされた。

座屈小委員会(資料 01-04, 井戸田委員)

- ・ 座屈設計指針の改定内容とスケジュールについて説明がなされた。
- ・ 刊行予定書は提出済みで 2015 年 6 月頃刊行予定。
- ・ ブレースの首折れ破壊については接合部設計指針, 制振構造設計指針にも関連する内容であるため, 各指針でどのように取り扱うかを用語も含め次回の重点審議で検討する。

接合小委員会(資料 01-05, 増田委員)

- ・ 接合部設計指針の英文化に関して英文会小委員会との連絡は松本委員依頼した。
- ・ 高力ボルト接合設計施工ガイドブックの本委員会承認は 7 月を予定している。

制振小委員会(資料 01-06, 緑川委員代理:宇佐美)

- ・ 正誤表の作成状況を報告した。次回の小委員会までに取りまとめる予定である。

耐火設計小委員会(資料 01-07, 平島委員)

- ・ 鋼構造耐火設計指針の改定に関して, 架構崩壊温度にリダンダンシーがあり, その効果を用いることで崩壊温度を上昇できることや実設計例を紹介する。
- ・ 原稿を 15 年度中にまとめ, 16 年度中に出版を予定していたが延びそうである。
- ・ シンポジウムの実施計画が説明され, 運営委員会で承認された。11 月 6 日(金), PM に開催予定であり, 参加者は主に専門家を対象として 50 名を予定している。

環境小委員会(資料 01-08, 兼光委員)

- ・ 委員会査読の対応状況について説明がなされた。

素材小委員会(資料 01-09, 見波委員)

- ・ 鋳鉄検討 WG は 7 月の構造本委員会で承認される予定である。
- ・ データベースはデータの一部に不備があり, 現在は準備中の状態となっている。

塑性設計小委員会(資料 01-10, 五十嵐委員代理:聲高委員)

- ・ 塑性設計指針の改定内容について報告がなされた。
- ・ 10 月末に改定原稿が完成する予定である。
- ・ 構造本委員会での委員委嘱の手続きを事務局に確認して実施すること。
- ・ アンカーボルトの引張試験結果は, 内容は変わらないが JSSII 規格から JIS 規格に変更となった。

鋼構造関連規準・指針の英文化小委員会(資料 01-11, 岡崎委員代理:松本委員)

- ・ 運営委員会の査読進捗状況の報告がなされた。
- ・ 沖晃司氏(JFE スチール)の委員追加が承認された。
- ・ 現 S 規準で更新が必要な個所の紹介がなされた。
→主査, 幹事で今後の対応(方針, 割振り等)を検討する。(多田主査)

- (4) 資料 01-12 に基づき吹田委員より 2015 年度大会 PD の進捗状況について説明がなされた。
- ・ PD 資料の原稿執筆依頼済みで, 執筆作業中である。

- (5) 重点審議として, 資料 01-13-01~01-13-04 に基づき増田委員より柱脚設計施工ガイドブックについて, 松本委員より梁端混用接合 WG の今後の活動計画について説明がなされた。

- ・ 側方破壊の定義は何か。
→アンカーボルトを起点とした破壊で, 支圧による破壊とは区別している。
- ・ 側方破壊やパンチングシア破壊に鉄筋の効果が見込めるか。

- 鉄筋は支圧破壊にしか効果がないので、今は見込んでいない。
 - ・ 露出柱脚と置屋根タイプの柱脚では破壊モードが異なるので、今後検討してほしい。
 - ・ 露出柱脚の立ち上がりは必要か。
→建物用途にもよるが必要なケースは多い。
 - ・ 露出柱脚の認定工法はガイドブックでは対象にしていない。
 - ・ 根巻き柱脚のSからRCへの応力伝達においてスタッドは余力として利用している。
 - ・ 梁端混用接合WGの成果を2016年5月までにまとめ、シンポジウムを開催予定である。
 - ・ 運営委員会の査読者は次回委員会で決める。
- (6) 資料 01-14 に基づき井戸田委員より学会図書 of 質疑回答状況について確認がなされた。
- ・ 接合部設計指針関連については回答したか否か確認する。(増田委員)
- (7) 資料 01-15 に基づき 2016 年度大会 PD 案について議論がなされた。
- ・ 次回の運営委員会で決めるので提案がある委員は用意のこと。
 - ・ 超高層建築物の維持管理・解体や耐火設計関連のテーマが挙げられた。
- (8) 資料 01-16 に基づき田中委員より、建築工事標準仕様書鉄骨工事 (JASS6) および鉄骨工事技術指針の改定において、サブマージアーク溶接により溶接組立 H 形断面材を製作する際のウェブ開先角度を 50 度としたい旨の説明がなされた。
- ・ 現 S 規準では 60 度以上を隅肉溶接としている。
 - ・ せん断力ではなく引張力作用下、特に疲労に対してはどうか。
→まずは耐力評価の根拠となるデータが必要であるので、整理すること。
- (9) 竹内委員よりラチスシェル屋根構造設計指針について運営委員会からの意見収集の依頼があった。委員で意見等があれば宇佐美まで連絡のこと。

6. その他

- ・ 今後の重点審議は次の通り。
 - ◇ 2015 年度第 2 回運営委員会:座屈小委員会
- ・ 次回の運営委員会の日時、場所は以下の通り。
 - 第 2 回 2015 年 7 月 24 日(金), 13:00-17:00, 於:建築会館
 - 第 3 回 2015 年 9 月 3 日(木), 15:15-17:00, 於:建築会館